



ネパール・ミカノ会

No. 6号 1998年10月23日発行

〒194-0213 東京都町田市常盤町 3196

世羅美庵内ネパール・ミカノ会 ☎ 0427-98-0046

ミカノ会はいそがしい

ネパール・ミカノ会 会長 斎藤 誠也

ネパール古典舞踊の催しが9月26日に築田寺で行われた時は、いつもより案内があまりに時間がさしせまっている事に驚かれた事と思います。なにしろロンシャン・シャカが電話でやりたいとってきたのが9月20日(日)。ネパール・ミカノ会月例会(毎月第三土曜日)の翌日であり、内容について話しがあり決行がきまったのが9月23日夕刻。あわてての連絡でした。当日は50名余の参加者で、読売新聞多摩版にも報道されましたので、ご存じの方も多いと思いますが催し自体は成功でした。でも、あまりの時間のあわただしさに、ただただおどろき、とまどいのある会員が多いと思われます。ネパール流かもしれませんが、くわしい内容を知らされぬまま、という事が多いのですが、いまのところ、直感力をいかして「良い事はやる事にしよう」というスタンスで進んでいます。

もう一つ、急にヌルプ・ラマ君(ミカノ会カトマズ現地事務所)からFAXが入りました。それには11月30日~12月2日の「世界仏教徒サミット」(会場ルンビニ)への文部大臣の招へい状です。会長の私あてですが、これも応じるのがあたりまえという感じで、うちの寺の大イベント(11月28日)の翌日早明出発というあわただしいものです。こまったものですがまあ相手はネパール。少しでも応じられる時には応じておこうという気軽な気持ちで行きたいと思っています。ところで10/31~11/3の高原書店の「ネパールバザー」ギャラリー、インコンプリートでの「世羅美庵展」(10/30~11/3)、11/3のネパールNGOシンポジウム(町田公民館)が始まります。これには、是非全会員の知恵と体力と少しのお金を提供いただきたく、お願い致します。

混沌としている。あわただしい。でも元気で活き活きしている。そんな、ミカノ会の活動が平成10年度も続いています。明年3月のネパール支援の旅にもご参加ください。

町田

(31) 世羅美庵内ネパール・ミカノ会

斎藤 誠也 発行



「ネパール古典舞踊の催しが9月26日に築田寺で行われた時は、いつもより案内があまりに時間がさしせまっている事に驚かれた事と思います。なにしろロンシャン・シャカが電話でやりたいとってきたのが9月20日(日)。ネパール・ミカノ会月例会(毎月第三土曜日)の翌日であり、内容について話しがあり決行がきまったのが9月23日夕刻。あわてての連絡でした。当日は50名余の参加者で、読売新聞多摩版にも報道されましたので、ご存じの方も多いと思いますが催し自体は成功でした。でも、あまりの時間のあわただしさに、ただただおどろき、とまどいのある会員が多いと思われます。ネパール流かもしれませんが、くわしい内容を知らされぬまま、という事が多いのですが、いまのところ、直感力をいかして「良い事はやる事にしよう」というスタンスで進んでいます。」

ロンシャン・シャカの人
... (transcription of the article text) ...

ネパール舞踊で交流

支援のNGOメンバーらに披露

猪肉の居酒屋

今村 旭

タンセンのスリナガルホテルの近くに居酒屋がある。ホテルを出て町に向かう下り坂を少し行った左側だ。結構な急坂でこれから下の町まで散歩に行くところだ。とろとろと下って行くと、うす暗い店の中になんか長身のおじさんが外を見て、通り過ぎる我々を興味深げに見ていた。チラッと見た感じで、冷たいビールくらいは良いかなと思いつつ通り過ぎた。下の町では、いわゆる土産物店を売る店は無いが、日用品の市民の生活用品で、面白い物が沢山ある。一行は自分の好みの色々な物を、両手のビニール袋に下げ、買い物集団で、楽しげに店から店へと何かを見つけては一かたまりになっていた。重い荷物を頭にかけてヘアバンドの様な、綿であみ上げた、きれいな帯状の物。一人が5本、10本と店の在庫を買いつくした。安くてきれいで、私も私もと、これが一番人気で競って買った。次がサリー。店内に雑然と広げてある中から色々サイズが良ければ、出来合いでもゆったりしているので使いやすい。来れも数人が買い、帰った後で色々な催しで着用して、非常に役に立った。安くて、ユニークで良い買い物だった。これが二番人気。あとはミュージックテープやスカーフ等の小物が続くが、何を言っても忘れないのが岩塩だ。チベットから入ってくる岩塩を市民は常用している。一粒がサイコロ状にカットしてある。ややすすけて、ホコリ色をしている。店主が秤で注文通りに量り売りしてくれる。これが又安い。申し訳ないほど安い。店番の女の子がここでも登場。年の頃は10~12才くらい。ここではもったいないからあまり詳しくは書かない。山の町に気高く住む美少女とだけ言っておきましょう。塩屋の娘とはこの娘のこと。当然一行は写真を撮らせてもらう。この一枚がタンセン病のはじまりとなる。塩が三番人気でしょう。こんな賑やかな散歩の後には、又急坂登りを30分もしないとホテルに帰れない。やれやれあと少し。先ほどの居酒屋の前にさしかかる。店から突然おやじがとび出して来た。鉄砲を撃つジェスチャーをして「ダーン」と一声。何かと出ると皿の上にゆでた肉がころがっている。どうやら一休みして行けとの事らしい。早速ラマ君に通訳してもらう。話しは決まった。もう一度加熱して、塩味で。すすけたフライパンで手早く調理し、焼っぱの皿にのせてはい出来上がり。単純明快。ネパールの野生の猪肉は冷えたビールとベストマッチ。急坂登りの最後はホテルを目前にして、ほとんど全員がうす暗い店内にひしめいて、美味なる一時をすごした。泰さんが一番よろこんだ様に思う。これだけ楽しんで600ルピーでおつりが来た。店のおやじは「ダーン」の一声で遠来の我々に美味をプレゼントしてくれたのだろう。これもネパールの親切心からの「ナマステ」だろうか。だからタンセンは好きだ。大谷さんはこの店に次の日も行った。居酒屋「ダーン」は四ツ屋と認めよう。店構えはおせじにもほめる所は無いがその心は極上だ。又通りかかったらぜひ寄っておやじさんに会いたい。

タンセン病万才!!



チベット紀行

鈴木 勲

今年の夏、念願のチベットへはじめて入城し、旅して来ました。成田から香港、広州、成都を経て、6日目に空路ラサ入りした。空は限りなく青く、近く、まさに「神の土地」にふさわしい。ただ後頭部の辺りが重く、ボーとする。「これが高山病か？」と思った。ラサ3日目に広州でもらった風邪も影響して一日寝込んだが一度も酸素ボンベを吸う事なく、以降全く平気になった。

ラサは非常に居心地のいいところだった。私の中ではカトマンドゥと双璧だ。「何が？」と聞かれると困ってしまうが、ボーとするには最高です。高度が高く、酸欠で余計な事を考えないですむからかもしれません(!?)。カトマンドゥのように人、物、車であふれ返った感じはない。しかしチベット人は色は黒いが日本人と同じモンゴル系なので親しみはある。仏教徒という点でも。ただしジョカン（大昭寺）周辺を除くと、中国人は多いし、街の雰囲気も中国ナイズされているような気がする。

絵を描いたり、主のいないポタラ宮や寺々を巡り、あっという間に十日が過ぎた。途中知り合った仲間（日本人）4人と共にランクルをチャーターし、5泊6日の行程でネパール国境へ向かった。ギャンツェ、シガツェ、シェーカルと中尼公園を走りロンボクへ、ベースキャンプから見たエベレストはとても美しかった。ここまで一隊行者としての私にはチベット人の（中国）政府に対する反発、政府による人権抑圧といったものは目の当たりにしなかった（刃向かえばすぐ投獄されるので）。だがティンリーに行く途中、銃を腰に構えた私服の公安（警察）に、地面に座らされたチベット人十数人を見た。インド（亡命政府のあるダムサラ）への亡命に失敗し捕まったらしい。子供もいるのに……。

チベットは人も自然も美しい、けれどもこの先ずっとそうあり続ける事が出来るのでしょうか。ニューラムから国境の街ダムへ溪谷をぐんぐん下っていく。同時にチベット高原にはなかった緑の木々があふれ、気温と湿度も上昇していく。チベットに別れを告げ友誼橋を渡ってネパールのコダリへ。三度目のネパールなので「帰ってきた」という感じだ。次回は聖山、カイラスへ行きます。自転車で。



Mt. Ganesh Himal. 01. 702301

待ちかねたネパールからの現地報告が届きましたのでお知らせ致します。尚現地スタッフのヌルブ・ラマ氏は、ルンビニ開発事業団に復職されております。

(事務局)

プロジェクト地域

プロジェクト地域であるルンビニ Madhuvani村発展コミュニティは、平和の使徒ブッタ誕生の聖地、ルンビニ聖園から約1 Kmに位置している。このプロジェクト地域へは、砂利道によってつながっており、バイラワ空港から約23 Kmのところにある。このプロジェクト地域はネパールの東テライに位置している。

東テライにあり、インディアンとの国境に近いこの地域は、夏はとてもあつく(40度以上)そして冬はとても温和である。

このプロジェクト地域のあたりの人々の主な職業は、牧場と農業で、小麦、米、マスタードを主とした産出物としている。ルンビニ聖園や他の場所内で労働者として従事している人々はごくわずかである。この村の経済的状態はとても貧しい。

進行状況

2教室ある以前の校舎は、345人の生徒には、不足であった。それなので生徒は、木の下で勉強しなければならなかった。降雨やあらしの時には授業は中止となった。しかし、今行われているこのプロジェクトによる4教室の建設の後では、すべての生徒が教室内で勉強できるようになるだろう。これにより、私達は多くの生徒が、よりよい教育を受けることができるようになるかと信じている。同様に教育の向上により、村はよりよくなるだろう。ソサエティーの発展のために彼等の知識に寄与することが出来ることにより、人々の認識も高まることになるだろう。このプロジェクト(校舎建設事業)は、もう約80%でき上がっている。のこりの仕事は、しっくいを塗ること、ドアをとりつけること、壁塗り、鉄格子はめである。これは約一カ月で完成するだろう。

今年のモンスーンの季節にとってもはげしい雨が降り、このプロジェクト地域への道は被害を受け、この建設の材料を運ぶのが難しかった。川から砂を持ち出すのに手間がかかった。それなので、これらの理由から建設が少し遅れた。

このプロジェクト(校舎建設)の写真、図、見積もりの詳細を添えておきます。このプロジェクトの完成後に、より詳しい報告書をお送りします。

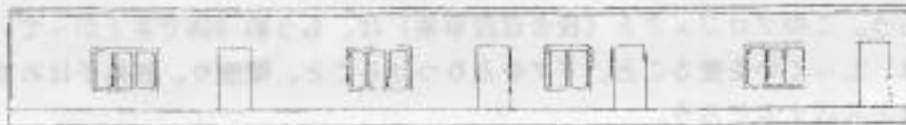
ヌルブ・ラマ
G・P・O Box 8940
カトマンドゥ
ネパール



Work on Progress



Earthwork Excavation for Foundation



FRONT ELEVATION



BACK ELEVATION



Labour At work



夢の下書

もりだくさんのミカの会10月・11月のスケジュールです。御用とおいそぎの方もとにかくお顔だけでものぞかせて下さい。

◎高原書店チャリティーバザー（10月31日～11月 3日）

バザー商品を大募集中！

世継美庵、又は30日 6時より高原書店読書サロンに直接お持ち下さい。

ミカの会 '97～'98活動報告展同時開催

◎ネパールって、どんな国（10月27日～11月 3日）

町田市公民館主催、ネパール・ミカの会、シャプラニール＝町田架け橋の会協力

◎相模原国際交流フェスティバル '98（11月 8日）

会場・相模原国際ラウンジ；ネパール・ミカの会、相模原グループが中心に。

◎シリ・マズワニ小学校 完成調査に斉藤謙也会長ネパール行。

日程11月29日～12月 6日（国王参加のレセプション含む）

同行希望者は至急、事務局まで

◎ミカの会会員：今村 旭 写真展（11月12日～11月17日）

「シルクロード、チベット、ネパールを旅して」

会場・ギャラリー「インコンプリート」 町田市原町田 ☎ 0427(32)1815

ムスタグ・アタ峰遠征

大谷 安宏

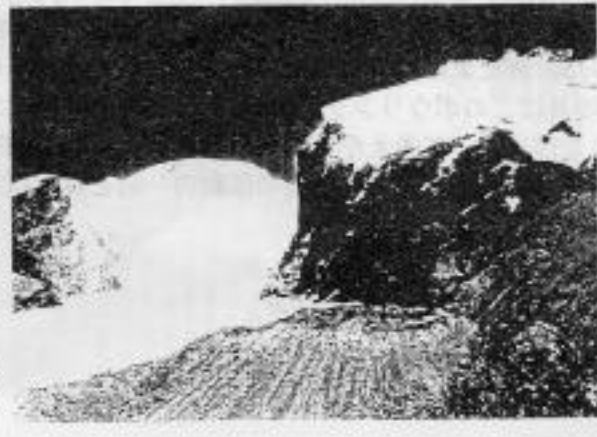
2年前、穂高岳沢の天幕で満点の星を見ながら『海外遠征に行くかあ』『今の40周年の目玉になるなあ』と漠然とした会話がシルクロード・タクラマカン砂漠の果てに白く見えるムスタグ・アタ峰(7,546m)を全員登頂を目標にトレーニング、遠征準備が開始された。同じ企業内で6人のメンバーが1ヶ月間の休暇を取ること、ヒマラヤ登山おける事故死亡率が2.8%であることに対する家族の承認と協力は準備を進める上で難しい課題であったが、“リコー山の会ムスタグ・アタ登山隊98”を結成した。

北京、ウルムチ経由でカシュガルからカラコルムハイウエーをムスタグ・アタ峰のふもと標高3,880mのスバシで最終準備を整えラクダに500kgの隊荷を背負せベースキャンプ(4,300m)を設営する。すでにベストシーズンオフで4~5日の周期でかわる天候の合間を高度順化を繰り返しながら雪線上の5,300mにC1(キャンプサイト)を設ける。

C1上部は氷雪の急な斜面の上のアイスフォールは4~5階建のビルほどの氷塊が幾重にも覆い被さっている。アンザイレンでクレパスに気を配りながらのラッセルは、平地の約半分の酸素の中での荷揚げ登攀は片足二呼吸のペースで非常に息苦しい。ルートワークも順調にすすみ最大のポイントであるアイスホール帯を通過し6,200mに2張の天幕のC2設営。西にコングール山塊、東に遥かロシアのやまなみがつづく。ここからは頂上は望めないが雪の長い長い斜面がつづく。毎晩の雪にトレースは消え苦しい毎日がつづく。日程もかなり詰まり、メンバーに高度障害もあらわれ、全員登頂の目標を残念ながら断念し、精鋭2名のアタック体制に切り替え登頂をめざす。地形的にC2~上部間のトランシーバーの通信が取れず不安と苛立ちの2日間が続いたが『ヤリマシタッ。8月17日午後6時40分登頂、C3へ降下中』連絡を受信、メンバーと成功を喜び合い紅茶で『乾杯』。永い間の準備とトレーニングの結果全員登頂の目標は達成できなかったものの、韃靼山岳部として7,500m峰の成功は少なくとも日本初の快挙であり、素直に喜びたい。

今回の遠征に対し60歳を過ぎた小生が参加できた体力と気力、一緒に行けた仲間、そして理解と協力してくれた職場と家族に心から感謝したい。

ベースキャンプに降りた頃から尻に出来た腫れ物が巨大化し、帰路ウルムチの人民病院に12日間入院、2度にわたる切開手術により帰国が大幅に遅れ皆様方にご心配をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。



第2回ネパール支援チャリティーボウリング大会 御 礼



皆様のご協力のおかげをもちまして総数143名で盛大に大会を開催する事ができました。
チャリティーボックス、チャリティーオークションなど総額¥337,232をネパールミカの会にお渡しすることができました。本年11月、来年3月に間違いなく直接ネパールの子供達のためにお届けいたします。

ゲーム結果

- ★優勝 河原 恵知子
- ★準優勝 進藤 徳海
- ★3位 渋谷 樹子
- ★ハイゲーム 進藤徳海 254pin
- ★女性ハイゲーム 草薙アキ 221pin



昨年に引き続き2回の開催になりました。数日前から定員をオーバーしお断りする状況でした。皆たまには少し良いことをしたい、と言うのが本音のようです。金額は別にして毎年9月はこのボウリング大会が開催されネパールに関心を持って頂くことが大切です。とかく形式張って考えがちなボランティア活動も趣味を通じて楽しくお役に立つと言うスタンスもあります。ミカの会の活動の一助となれば幸いです。是非来年も会員一同奮ってご参加下さい。

副会長
加藤 誠一